

## 第5章 総括



## 第5章 総括

### 第1節 成果物

本調査研究では、DXに関する企業ニーズ調査から、職業訓練に必要なDX関連技術を明確化し、これをもとに職業訓練シーズの抽出、指導員の研修体系を作成した。

本調査研究における成果物は、巻末資料に添付している。また、これらの電子データは、当センターが管理・運営している「基盤整備センターホームページ」

(<https://www.tetras.uitec.jeed.go.jp/>)にて情報を公開しており、無償で閲覧が可能である。

### 第2節 成果物の活用について

本調査研究の成果物の活用方法について、以下に示す職業訓練カリキュラムの作成過程を例に述べる。

- ① ニーズの把握・分析
- ② 訓練目標の検討
- ③ 目標を達成するための訓練項目の検討
- ④ 訓練項目ごとの内容の検討

#### ① ニーズの把握・分析

DX関連技術明確化シートは、今回の企業ニーズ調査の集計から、中小企業の集計値をもとに降順で並べ替えを行っていることから、ニーズや関心などを把握しやすいようにまとめている。

また、DX関連スキルシートの「調査から見えるポイント（A）」の記載内容も同様に参考になるように記載している。

#### ② 訓練目標

DX関連スキルシート（DXスキル）に記載した「業務上の課題（C）」などを解決できることや、DX関連スキルシート（マインド・スタンス）の「DX推進のために重要とされるマインド・スタンスの実践度（D）」を高めることが、企業が目指していることであり、課題を解決できる人材が必要とされているといえる。このことから、課題の解決方法の習得が訓練目標になる。その際、合わせて「DX関連技術・スキル」の技術要素を活用することを含めると具体的な記載にすることができる。

### ③ 目標を達成するための訓練項目の検討

D X 関連スキルシート（D X スキル）の「業務上の課題を解決するためのD X 技術（F）」や「課題解決のために習得しておくことが望ましいスキル」やD X 関連スキルシート（マインド・スタンス）の「マインド・スタンスの理解を促進するための具体的なスキルと研修項目」の項目名（下線部）などが訓練項目（訓練細目名）のキーワードとなる。

### ④ 訓練項目ごとの内容の検討

D X 関連スキルシートの「課題解決技術、手法を利活用した具体的な課題解決例」や「マインド・スタンスの理解を促進するための具体的なスキルと研修項目」の記載内容が習得すべき訓練内容のキーワードとなる。

実際にカリキュラムを開発する際は、上記に加え「対象業種や職務」、「受講生のペルソナの設定」などを決めることにより、「カリキュラムの項目の組合せ」、「訓練時間」の設定を行うことで訓練コース（訓練科）が開発できる。

具体的なカリキュラム開発の例については、巻末資料4「職業訓練D Xカリキュラム開発ガイド」の「D X 関連スキルシートを活用したカリキュラム開発マニュアル」に示している。

また、指導員が、巻末資料4で示したD X 技術を習得するための研修については、巻末資料5の研修体系関連付けて示しているため、訓練担当にあたり、研修の受講が必要となる場合に活用できる。

なお、職業大の指導員研修は、毎年、必要に応じて新規コース設定や見直しを進めているが、巻末資料4のD X 関連スキルシートでまとめた課題解決手法は、その際に参考となるものである。

## 第3節 今後について

本調査研究では、産業界のデジタル化に対応できる職業訓練シーズの作成を行った。これらは、既存の訓練カリキュラム見直しや、新規訓練カリキュラムの開発において有用である。

しかし一方で、デジタル技術の進展はめまぐるしく、常に新しい技術やトレンドが生まれてきている。今回まとめた職業訓練シーズでは、技術を「要素」ごとではなくカテゴリーのレベルで整理している。それぞれのカテゴリーに含まれる「要素」は、このトレンドを把握し、日々更新していくことも重要である。